

川越市教育委員会第7回臨時会会議録

- 1 会議の場所 川越市教育委員会 教育委員会室
- 2 開 会 令和2年8月6日 午前9時
- 3 閉 会 令和2年8月6日 午後3時30分
- 4 教育長並びに出席した委員 新保正俊、梶川牧子、長谷川 均、佐久間佳枝
- 5 欠席委員 嶋野道弘
- 6 教育長の職務を行った者 教育長新保正俊
- 7 説明のため出席した者 教育総務部長長岡聡司、学校教育部長内野博紀、学校教育部副部長兼学校管理課長梶田英司、学校教育部参事兼教育指導課長長田茂樹、学校教育部参事兼教育センター所長岡島一恵、教育総務部参事兼教育総務課長若林昭彦、中学校用教科用図書選定委員会委員（川越第一中学校校長小熊利明、初雁中学校校長中野浩義、高階中学校校長山原伸治、霞ヶ関西中学校校長堤 貴幸、川越西中学校校長吉田 剛）

8 前回会議録の承認

令和元年度第12回臨時会会議録、第13回定例会会議録、第14回定例会会議録及び令和2年度第1回定例会会議録を承認した。令和2年度第2回臨時会会議録、第3回定例会会議録、第4回臨時会会議録、第5回定例会会議録及び第6回定例会会議録については、現在、調整中であり、次回会議において承認することになった。

9 議題及び議事の概要

日程第1議案第29号 令和3年度使用中学校用教科用図書の採択をすることについて

参事兼教育指導課長

義務教育諸学校の教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、学校教育法附則9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、4年ごとに採択することとなっている。今回は令和3年度から全面実施となる中学校学習指導要領に基づく教科用図書における採択となった。

また、本市は、埼玉県教科書図書採択地区の変更により、平成26年度から、第9採択地区（単独採択）となった。このため、本市の教科用図書採択については、川越市立小・中学校用教科用図書の採択に関する規則に基づき、16種目の中学校用教科用図書について教育委員会が審議し、採択しようとするものである。

ここで、今年度の採択までの概要について説明する。本年5月から本日まで、規則に定められた各機関が、見本本が送付された教科用図書について綿密な調査研究と慎重な協議・検討を進めてきた。

教科用調査研究専門員会は、各教科の教科用図書について、公正中立な立場から

真摯に調査研究を重ね、「教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告書」を作成し、教科用図書選定委員会宛に提出した。

教科用図書選定委員会は、本日までの間に3回の会議を開催し、専門員会から提出された「教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告書」とともに、学校からの意見、保護者の意見を踏まえ、「市町村の教育委員会等が教科書を採択するに当たっての採択基準」を基に川越市の観点を設定して協議・検討を行った。なお、教科用図書選定委員会から、推薦教科書として報告されていない教科書についても、採択の対象であり、審議及び採択をお願いしたい。

教育長

審議の進め方についてお諮りしたい。

中学校用教科用図書については、これまでに各選定委員により、見本本について十分に研究されているところである。また、専門員の報告書、校長からの報告についても、全て事務局より事前に送付され、既に関覧、研究されている。また、教科用図書選定委員会の報告書についても、事務局より届けられている。相当な量になるが、慎重に審議していくこととする。

審議の進め方については、16種目の教科用図書について、種目ごとに選定委員からの説明を求め、審議することとし、審議順は国語、書写、社会 地理的分野、社会 歴史的分野、社会 公民的分野、地図、数学、理科、音楽 一般、音楽 器楽合奏、美術、保健体育、技術・家庭 技術分野、技術・家庭 家庭分野、英語、道徳としてよろしいかお諮りしたい。

(全員異議なく同意)

教育長

次に、採択の方法についてお諮りしたい。

採択の方法については、すべての種目において審議終了後、無記名投票により、教育長及び教育委員3名の投票の結果、獲得票数が最も多かった教科用図書を採択することとし、結果を公表することとしてよろしいかお諮りしたい。

その際、獲得票数が同数となった場合は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第4項の規定に基づき、「教育長の決するところ」により採択することとしてよろしいか併せてお諮りしたい。

(全員異議なく同意)

教育長

国語について審議及び採択を行う。

選定委員

国語の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書4者、東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書出版について、調査研究を行

った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と光村図書出版の2者とした。

東京書籍「新しい国語」では、7つの単元と、基礎編、資料編の3部構成となっている。学習のポイントを「言葉の力」として明示し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫している。各教材とも「目標」「問いかけ」で学習の流れを見通し、「言葉の力」で学びのポイントを確認し、記述式の「振り返り」で学習をまとめる構成となっている。巻末の基礎編「学びを支える言葉の力」では「対話的な言葉の力」「文学的な言葉の力」「論理的な言葉の力」の基礎が身に付けられるようになっている。読書の教材は、「読書への招待」として各学年3か所掲載され、「読書案内」では3学年で361冊のさまざまなジャンル、テーマの本が紹介されている。「読書活動」では、読書活動を通して情報活用能力を育成することができるような教材が配列されている。

光村図書出版「国語」では、8つの単元と、「文法・漢字・振り返り」「学習を広げる」の3部構成となっている。第1学年では、巻頭で「言葉に出会うために」を設け、国語学習の基本的な学び方を提示し、中学校の学習に滑らかに移行できるよう工夫されている。教材は、学習した「言葉」を日常生活で意識できるよう系統立てて構成され、「語彙一覧」では表現力が向上する工夫もなされている。「マッピング」「ブレインストーミング」「ワールドカフェ」で思考力を広げる手立てを紹介している。また、思考を整理し、深めるための流れが図解で例示されている。伝統的言語文化を学ぶために、本文の教材の他に、多数の古文が資料編で紹介されている。各学年2か所の読書単元で作品の一部を紹介することで、続きに興味を持ち、生徒が自ら図書を手に取るように促している。「読書案内」で複数の図書を紹介したり、「読書活動」で様々な切り口から読書へ誘う工夫をしたりしている。

委員

2者の大きな違いについて伺いたい。

選定委員

東京書籍は、語彙指導に力を入れており、読むことの教材では「広がる言葉」で、1ページを語彙の学習ができるようにしたり、指導編の「言葉を広げよう」では、多くの語彙を紹介したりしている。また、生徒が主体的に学べるように、「学びの扉」の中で、日常生活における課題の視点を、生徒が身近に感じられるように漫画で示している。言語指導においても、生徒が身近に感じられるように、キャラクターの会話で学習を進める工夫が見られる。光村図書出版は、各領域において、適切な言語活動を設定しているというのが特徴的である。読むことの教材において、学習の中で「見通しを持つ」「とらえる」「読み深める」「考えを持つ」「振り返る」の学習過程で、適切な言語活動が設定され、見通しを持って学習できるようにしている。巻末の「学習の窓一覧」では、身につけたい学習のポイントが示され、

日常的に活用できるようになっている。

委員

主体的に学びに取り組むための、2者の工夫について伺いたい。

選定委員

両者ともに、巻頭において全体の構成や1年間の学ぶ内容を示している。それに加えて、東京書籍は、「手引き」において目標を明確に示し、振り返りを記述式で書かせるようにしている。光村図書出版は、学習の中で「見通しを持つ」「とらえる」「読み深める」「考えを持つ」「振り返る」の学習過程で適切な言語活動が設定され、見通しを持って学習できるようにしている。また、大単元のめあても設定されている。

委員

「目標」「まとめ」「振り返る」の一連の学習過程における、2者の工夫について伺いたい。

選定委員

例えば、基礎的な知識を習得させるという視点では、東京書籍は、「手引き」の中で目標を振り返り、ヒントを示す場所を設定している。光村図書出版は、読むことの教材において、学習の中で「見通しを持つ」「とらえる」「読み深める」「考えを持つ」「振り返る」の段階的な学習過程の構成となっている。また、自己を広げる表現力という視点では、東京書籍は、読むことの教材で発表や話し合いなど学習者相互の考えを共有させる言語活動を設定している。さらに「学びの扉」で、生徒に身近な学習課題を漫画で設定している。光村図書出版では、読むことの教材において、「学習の窓」を設け、活用的な言語学習や学習の要点を提示して、自己を広げる視点が示されている。

教育長

川越市の課題である「思考力、判断力、表現力等の育成」に対する4者の工夫について伺いたい。

選定委員

東京書籍は、読むことの教材で発表や話し合いなどを、学習者相互の考えを共有し深めていける言語活動を設定している。「学びの扉」で基礎的・基本的な知識技能を活用する学習課題を設定できる。三省堂は、「読み方を学ぼう」を設定し、思考力、判断力、表現力を伸ばすための方法を示している。教育出版は、読むことの教材においての道標を設定しており、「内容をより深めよう」と「自分の考えを伝えよう」で構成され、自分の考えを伝えあえる場面を設定している。光村図書出版は、読むことの教材において、「学習の窓」を設け、活用的な言語学習や学習の重点を提示している。また、「話すこと」「書くこと」では、学習者相互の交流の場を設け、伝え合う力を身につけさせるための取組を行っている。

教育長

光村図書出版の「学習を広げる」の使い方について、若い教員でも問題なく使用できるか伺いたい。

選定委員

各教員がそれぞれの工夫に従い、活用しやすいように作成されている。

教育長

選定委員の中でも使いやすいという意見があったか伺いたい。

選定委員

話合いの中で、そのように判断した。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、光村図書出版「国語」4票、他は0票となり、国語は、光村図書出版「国語」を採択することとする。

教育長

書写について審議及び採択を行う。

選定委員

書写の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書4者、東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、教育出版と光村図書出版の2者とした。

教育出版「中学書写」では、教材の構成を「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」とし、学習の内容や手順を明確にすることで、意欲的に学習できるように工夫している。随所に書き込み欄が設けられ、考えさせたりグループで話し合わせたりする活動を通して、主体的・対話的で深い学びへの学習効果を高める工夫がされている。巻頭に「学習の進め方」を掲載し、何をどのように学ぶのかを明確にしたうえで学習に取り組む工夫がされている。毛筆教材は見開きページで示し、右のページに目標と手本、左のページの「考えよう」に濃淡をつけた朱墨での手本が設けられ、配置や筆順、ポイントが示されている。学校生活や日常生活の中で文字がどのように使用され、どのように生活の中で生かされているのか示されている。

光村図書出版「中学書写」では、綴じ込みの「書写ブック」（硬筆練習帳）には、毛筆の教材文字と同じ要素を持つ硬筆課題が設定され、必要に応じて既習事項を確認しながら書写の基礎・基本を身に付けられるよう工夫されている。教材のはじめに「考えよう」が設定され、生徒が文字の特徴や書き方のポイントを考えたり、話し合ったりする活動が位置付けられている。何をどう学ぶのか、何ができるようになったか、身に付けた力をどう生かすかが分かりやすい構成となっており、主体的

な学習姿勢を育成できるように工夫されている。学習の流れが右ページから左ページへと示され、紙面がシンプルに構成されている。毛筆手本の横には、筆順や穂先の動きがわかるように朱書きが示されている。UD書体を紹介するなど、他教科や学校行事等で活用したり、関連付けて取り組んだりすることができる内容を取り入れている。

委員

生徒が意欲的に学習に取り組めることが大事だと考えるが、この点について2者の工夫を伺いたい。

選定委員

両者とも学習の進め方が統一され、見通しを持って学習に取り組むことができるよう、構成されている。光村図書出版は、誰にでも見やすくわかりやすい、ユニバーサルデザインに配慮したシンプルな紙面となっており、学びやすく構成されている。教育出版は、写真図案を多数掲載することで、興味関心を高める工夫がされている。

委員

光村図書出版の「見やすくわかりやすい、ユニバーサルデザインに配慮したシンプルな紙面」という説明について、具体的にはどういうイメージか伺いたい。

選定委員

紙面をシンプルにすることで、見やすく、わかりやすい構成になっていると考える。毛筆教材の学習において、ポイントや試し書きの記述はないものの、毛筆用具を準備するスペースが確保できるという面もあり、そこは良い点でもある。教育出版は、書き込み欄を設けることで、わかりやすい構成となっている。

委員

学びに向かう力や人間性等を涵養するために、主体的に学習に取り組む工夫が必要と考えるが、その点についての2者の工夫を伺いたい。

選定委員

光村図書出版は、学習が「見通しを持つ」「考えよう」「深めよう」「生かそう」という流れになっている。学習を振り返る場面では、学習目標に対応した自己評価項目と照らし合わせて、振り返りができるようになっている。教育出版は、学習の進め方として、「目標」「試し書き」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」「学習や日常生活に生かそう」という流れになっている。「振り返ろう」では学習目標と連動した複数の自己評価項目に照らし合わせながら、「できた」「もう少し」を選ぶ形で直接記入させるようになっており、主体的な取組への工夫がある。

委員

2者の教科書のサイズが異なっているが、メリット・デメリットについて伺いたい。また、書写の場合、いろいろな道具を机の上に置くが、その場合にサイズの違い

で使い勝手が変わるかも併せて伺いたい。

選定委員

光村図書出版はB5版、教育出版はAB版で、どちらの大きさでも学習への問題はないが、B5版は毛筆学習のスペースを広く確保できるという良さがある。AB版は、横幅が広いために紙面にゆとりがあり、それぞれ両者の良さがある。

教育長

川越市では硬筆が重視されているが、光村図書出版の「書写ブック」の硬筆への効果を伺いたい。

選定委員

「書写ブック」では硬筆課題が設定されているが、例えば、教科書で「雲」という文字を取り上げると、「書写ブック」に同じ要素の雨冠を使った文字を複数取り上げるなど、教科書で習った漢字と同じ要素を持つ文字を、繰り返し練習できるような工夫がされている。

教育長

学習指導要領で特に強調されている「文字を正しく整えて速く書く」という点について、各者の特筆すべき点を伺いたい。

選定委員

東京書籍は、「書写の鍵」というものがあるが、文字を正しく整えて速く書くために必要な知識・技能の鍵となっている。単元展開がコンパクトにまとめられ、どのように学ぶかを理解しやすい工夫がされている。教育出版は、随所に書き込み欄を設定しており、話し合い活動や気づいた点を書き込ませる工夫がされている。三省堂は、各教材が見開き2ページで構成されており、「書き方を学ぼう」で書き方のポイントを取り上げて、各教材で学習すべき内容が、一目でわかるように工夫されている。

教育長

光村図書出版は、「書写ブック」について言及があったが、その他特筆すべき点があるか伺いたい。

選定委員

キャラクターを活用したり、「学習の窓」で学習の内容と活動の流れをわかりやすく示したりと、ポイントが一目でわかるような工夫がされている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、光村図書出版「中学書写」4票、他は0票となり、書写は、光村図書出版「中学書写」を採択することとする。

教育長

社会 地理的分野について審議及び採択を行う。

選定委員

社会 地理的分野の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書4者、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と帝国書院の2者とした。

東京書籍「新しい社会 地理」では、見開き1単位時間の構成とし、「学習課題」、本文、「チェック&トライ」という流れで、問いを軸に構造化されている。学習過程に「スキルアップ」を設け、基礎的・基本的な技能を身に付けさせる工夫をしている。各節末の「まとめの活動」では、単元全体を貫く「探究課題」に立ち返りながら単元のまとめをさせ、本文途中に設けた「みんなでチャレンジ」では対話的学習をさせることで思考力、判断力、表現力を養わせる工夫をしている。各編の冒頭に「導入の活動」を設け、小学校の学習を振り返る活動や写真を使った学習を通して地理的事象に興味・関心を高めさせたり、「ICTを活用した学習」により自学自習ができるようにして主体的に学習に取り組む態度を養えるようにしている。SDGsなどの現代的諸課題を取り上げ、解決のためにできることは何かを考えさせることで、社会に参画する意識を涵養させる工夫をしている。各章の冒頭で「小学校の社会で習ったことば」を示し、小学校での学習とのつながりをスムーズにできるようにしている。

帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」では、各章や節の冒頭で「節（章）の問い」を示し、それを受けて1時間ごとに「学習課題」を設定して学習を進め、「確認しよう」「説明しよう」で振り返るという展開で構成されている。本文の脇にわかりにくい用語の「解説」欄を設け、知識の定着を促している。単元の中に設けられた「技能をみがく」では、地理を学習するうえで必要な基礎的な技能を習得できるよう工夫されている。章末や節末の「章（節）の学習を振り返ろう」では、QRコードを使って解答を閲覧して知識の定着を確認するとともに、3つのステップを通して段階を踏みながら思考力、判断力、表現力を育成できるよう工夫がされている。巻頭見開きでSDGsを紹介し、コラム「未来に向けて」や特設ページ「地域の在り方を考える」で持続可能な社会を目指す意義を考えさせる工夫がなされている。「日本の諸地域」では、冒頭で地図を使って小学校の学習を振り返らせ中学校の学習に結びつけられるようにしている。

委員

川越市の課題として、学力向上が大きなテーマとなっている。学力調査の結果から、説明する力を養う必要があると考えたときに、それらを高め養うための2者の工夫について伺いたい。

選定委員

令和元年度の川越市中学生学力調査の分析を見てみると、説明や根拠をもとにした説明をすることについて正答率が低く、無回答率が高いという結果となっている。そのため学習した内容について、説明する力を養う必要があると考えている。その点について、両者とも、1単位時間のまとめについて知識を確認し、その説明を行わせる構成となっている。

委員

2者の大きな違いについて伺いたい。

選定委員

言語活動の扱いにおいて、東京書籍は「まとめの活動」において多様な思考を促すため、話し合いや素早い活動、地図に書き込んで加工する作業が多く掲載されている。帝国書院は、学習したことをまとめ、整理し、箇条書きにするなど、学習した内容を要約する言語活動が多く掲載されている。また、情報機器の活用について、東京書籍は、他教科・他分野に関するデジタルコンテンツがついている。帝国書院は、タブレット端末で地球儀を体験できるソフトの紹介や、プレゼンテーションソフトでのまとめ方や発表など、実際の場面での使用方法が紹介されている。

委員

歴史的分野や公民的分野との関連付けの工夫について伺いたい。また、分野間で教科書の発行者が異なる場合に、関連性への支障がないか伺いたい。

選定委員

歴史的分野や公民的分野との関連について、東京書籍は、それぞれの分野で環境、エネルギー、伝統文化、宗教、防災、人権等共通したテーマを扱い、他分野との関連を示し、読みやすい構成となっている。帝国書院は、教科書の下端に、小学校の社会科との絡みを掲載している。

発行者が異なる場合の支障については、現在の授業において、教科書と異なる発行者の地図を使用しているが、教員からは、そのことによる支障という話は聞いていない。

委員

地図における支障はないということだが、歴史的分野や公民的分野の教科書との支障について伺いたい。

選定委員

東京書籍も帝国書院も他分野との教示があるが、例えば「歴史との関連」というマークがあると、それはあくまで、同一発行者の関連分野における教示にはなる。

教育長

地理的分野については、世界の諸地域や日本の諸地域にテーマ設定をして学ぶようになっており、テーマのとらえ方に各者の特色があると感じる。帝国書院の特色について伺いたい。

選定委員

東京書籍とも共通するが、章全体を貫く問いと、それを受けた1時間ごとの学習課題という設定で、2段階の課題に沿って授業を進める形となっている。

教育長

帝国書院の「地域の在り方を考える」の内容について伺いたい。

選定委員

課題を解決する学習という形式で、地域学習のまとめという扱いの単元となっている。

教育長

地域学習のまとめということもあるが、現代の課題解決への取組という視点で、地域の在り方を考えるという単元だと感じた。また、東京書籍について、発展的学習を深める学習の掲載状況を伺いたい。

選定委員

「地域にアクセス」という欄を設け、本文で学習したことを深めたり、本文に関連する学習を捉えたりするようにしている。「地域にアクセス」については教科書内に42項目掲載されている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新しい社会 地理」3票、帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」1票、他は0票となり、社会 地理的分野は、東京書籍「新しい社会 地理」を採択することとする。

教育長

社会 歴史的分野について審議及び採択を行う。

選定委員

社会 歴史的分野の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書7者、東京書籍、教育出版、帝国書院、山川出版社、日本文教出版、育鵬社、学び舎について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と日本文教出版の2者とした。

東京書籍「新しい社会 歴史」では、各章の冒頭で小学校の学習を振り返り、「みんなでチャレンジ」で対話的な学習に取り組みながら章の学習に見通しをもたせる工夫がされている。各章ごとに「探究課題」「探究ステップ」を設定し、見開き2ページ毎に「学習課題」を示し、3段階の学習課題を通して課題解決までの流れを構造化している。1時間の学習内容は、最後の「チェック」で基礎的・基本的な内容を確認し、「トライ」で学習内容を言語活動でまとめるという形式で統一し

ている。歴史学習に必要な基礎的・基本的な技能が身に付けられる「スキルアップ」の欄を設け、「読み取る」「まとめる」などの活動ができるようにしている。各章末では「基礎・基本のまとめ」「まとめの活動」で学習してきた時代を大観するだけでなく、「くらげチャート」「Xチャート」「ピラミッドストラクチャ」等を用いて思考力、判断力、表現力が育まれるように工夫をしている。川越市の藩校も掲載されている。

日本文教出版「中学社会 歴史的分野」では、第1編で小学校の歴史学習を振り返る活動を通して「歴史的な見方・考え方」を理解できるように工夫をし、第2編以降の学習では、毎時間ごとに「学習課題」を設定するとともに、その課題解決に向けて手がかりになる「見方・考え方」を示して学習が深められるよう工夫がされている。「スキルUP」では、調べ学習のポイントなど歴史学習を進めるにあたって必要な技能を解説している。毎時間の学習では、最後の「確認」で学習内容を言語活動でまとめさせ、各編の中盤の「チャレンジ歴史」では他者との対話を通して自分の考えを深めさせ、思考力、判断力、表現力を育成する工夫がされている。各編末の「学習の整理と活用」では、「アクティビティ」に取り組むことで時代の特色をとらえさせるようにしている。巻末に、発展的な学習として「歴史との対話を未来に活かす」の単元を設けて、現代の諸課題の歴史を調べる学習に取り組みせ、公民的分野の学習へ向けた課題意識をもてるよう工夫をしている。

委員

2者について、領土をめぐる問題の取り上げ方を伺いたい。また、ICTを活用した学習の推進が重要となると考えるが、東京書籍は、他分野との繋がりについてデジタル機能が充実しているということだが、この点について詳しく伺いたい。

選定委員

領土問題については、東京書籍は北方領土、竹島、尖閣諸島について、見開き2ページの単元で扱っている。帝国書院でも、見開き2ページの特設ページで同様に扱っている。

ICTの活用については各者とも活用があるが、東京書籍は、社会科の分野の内容だけでなく、他教科への意識が特徴である。

委員

社会科の分野間で教科書の発行者が異なることが、他分野との繋がりという点で支障にならないか伺いたい。

選定委員

各者とも他分野との繋がり意識しているが、同一発行者であれば、より効果的に活用できると考える。

委員

SDGsの教育に関し、歴史的分野において過去を知り、持続的な発展を考えて

いくうえでの、各者の特徴を伺いたい。

選定委員

現代的諸課題については歴史的分野においても取扱っている。東京書籍は、SDGsについて触れており、歴史から持続可能な社会の意識について考えさせていくよう掲載がされている。日本文教出版は、見開き2ページの特設ページを設け、震災・災害の歴史からどのように対策し、復興してきたか、いわゆる「防災」について現代的諸課題として掲載されている。

委員

2者について、各時代の特色を学ぶにあたっての具体的な工夫を伺いたい。

選定委員

2者とも各章の導入で、時代の特色を切り出すための写真や資料、問いなどを掲載し、時代を体感できるようにしている。また、章末では年表、地図、図式等ではまとめ学習を行い、時代の特色を理解するように工夫をしている。

委員

中学校では、1時間の授業の中で歴史的分野と地理的分野の内容をあわせて学ぶと思うが、教科書の発行者が異なる場合に、生徒の取扱いや教員側の不都合がないか伺いたい。

選定委員

生徒側は、教員が教えることに対して学んでいくが、同一発行者の教科書である方が扱いやすい。教える側の教員としても、同一発行者の教科書の方が指導はしやすいと考える。

教育長

川越市では若い教員が増えてきている。若い教員の使いやすさという点で、2者の特色を伺いたい。

選定委員

各者とも、見開き2ページで学習課題があり、最後のまとめで知識・理解の提供や、説明をさせることで思考力・判断力・表現力を養うなど、形式は似ているが、授業1時間の中での機能という点について言うと、東京書籍が使いやすい、という意見は選定委員の中で出ている。日本文教出版は、1時間の中での課題に対して必ず「見方・考え方」が学習課題としてあるため、子どもたちが先を見通して課題に取り組める。

教育長

東京書籍の「もっと歴史」というコーナーで、例えば同和問題など、現代の日本の諸課題を深く扱っているという印象を受けた。東京書籍以外の、現代の諸課題の扱いについて伺いたい。

選定委員

SDGsについては東京書籍のほか、教育出版、帝国書院でも取扱っている。防災については、教育出版、日本文教出版、育鵬社で取扱っている。

教育長

今後、新型コロナウイルス感染症の第2波による臨時休業も考えられる。家庭で自学するという点において、各者の特徴を踏まえ、どの教科書が適切か伺いたい。

選定委員

東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の4者については、1時間の学習の流れを見開き2ページで収め、「学ぶ」を構造化している。学習の始めに見通しを持たせるための学習課題を設定しており、本文や重要論文、写真等の資料をもとに学習を進める。最後に学習の理解を確かにするための問いで学習を深め、思考力・判断力・表現力を育成するための問いに続けて2段階でまとめができるように工夫されている。これらの点から、生徒が自学する場面では、これら4者の教科書が適していると考えられる。

教育長

東京書籍と日本文教出版の2者に関し、自学する際の特徴について、付け加える点があれば伺いたい。

選定委員

日本文教出版は、課題に対する見方・考え方に特徴がある。単に課題を与えるのではなく、「課題に対しこういった点から正解に迫る方がよい」という点がわかりやすい。東京書籍は、他教科・他分野とリンクしていることから、自学自習の際に学習が進めやすいと考える。

教育長

小学校の社会科では日本文教出版の教科書を採用しているが、小・中学校で異なる発行者の教科書を使用することが、学習の関連付けという点で、問題がないか伺いたい。

選定委員

日本文教出版をはじめ、小学校との円滑な接続については、各者とも対応している。東京書籍は、各章の冒頭で小学校での学習を振り返ることを通して、章の学習を貫く探求課題を設定する工夫がされている。日本文教出版は、本文脚注に小学校での学習内容を掲載し、関連付けを図っている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新しい社会 歴史」4票、他は0票となり、社会 歴史的分野は、東京書籍「新しい社会 歴史」を採択することとする。

教育長

社会 公民的分野について審議及び採択を行う。

選定委員

社会 公民的分野の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書6者、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と帝国書院の2者とした。

東京書籍「新しい社会 公民」では、各章の冒頭の「導入の活動」において、身近な題材を取り上げて話し合い活動を通して学習内容に興味・関心をもたせて章の学習を貫く「探究課題」を立て、それを追究するために節ごとの課題「探究のステップ」、1時間ごとの課題「学習課題」を設定し、課題解決を図る流れになっている。毎時間の最後は、基礎・基本を確認する「チェック」と要約や説明をする言語活動の「トライ」の2段階で学習内容を確実に定着させる工夫がされている。章末の「まとめの活動」では、思考の整理に適した様々な思考ツールを使って対話的学習を通して思考力、判断力、表現力を育成し、「探究課題」の解決を図る工夫がされている。特設ページ「もっと公民」では、SDGsに関連する内容を取り上げて現代的な諸課題の解決に主体的に取り組む態度を育成できるように工夫している。成人年齢引き下げに対応するために、特設ページ「18歳へのステップ」を設け、「選挙の流れ」と「契約のあれこれ」を扱っている。

帝国書院「社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して」では、見開きを1単位時間とし、「章の問い」「節の問い」を受けた「学習課題」を設定し、最後に「確認しよう」で知識の確実な習得を図り、言語活動につなげる問いである「説明しよう」で思考力、判断力、表現力を育成できるように工夫されている。学習するうえで必要な基礎的な技能を身に付けさせるために「技能をみがく」のコーナーを設けている。各章の冒頭の「学習の前に」では、実社会に興味を持たせ学習意欲を喚起させるためにイラストを使い見通しをもたせ、章の最後で再度同じイラストを活用して振り返りを行い、理解を深められるようにしている。章末の「章の学習を振り返ろう」では、その章で学習した内容を総合的に振り返り、特設ページ「アクティブ公民」では、本文で学習したことを踏まえて社会に見られる課題を段階的に追究することで思考力、判断力、表現力の育成を図っている。コラム「未来に向けて」や特設ページ「よりよい社会を目指して」では、人権保障や環境保全、防災などSDGsに関連した課題を取り上げ、社会参画への意識を高められるよう工夫されている。

委員

東京書籍について、思考力・判断力・表現力を育成するための工夫を伺いたい。また、帝国書院について、地理的分野及び歴史的分野など他分野との連携に関する工夫を伺いたい。

選定委員

東京書籍は、「みんなでチャレンジ」「もっと公民」「公民にアクセス」などを設け、本文で学習したことを踏まえ、本文に関連する内容を詳しく取り上げられるようになっている。また、「みんなでチャレンジ」は21項目、「もっと公民」は9項目、「公民にアクセス」は42項目が掲載されている。帝国書院は、他分野との連携について、各分野内で環境、エネルギー、伝統文化、宗教、防災と安全、人権、平和など共通したテーマを取扱っている。小学校で学習した分野も記載し、小学校との関連も図っている。地図帳との対応についても、配慮されている。

委員

東京書籍の、思考を整理するためのツールについて、「ウェビングマップ」「マトリクス」「ツールミン図式」「座標軸」などがあるが、具体的にどういったものか伺いたい。

選定委員

例えば、「ツールミン図式」は、「第2章 個人の尊重と日本国憲法」の「3節 これからの人権保障」の「まとめの活動 ちがいのちがいを追究しよう」内の「みんなでチャレンジ」の中で紹介され、「ステップチャート」は「第3章 現代の民主政治と社会」の「3節 地方自治と私たち」の「まとめの活動 S市の市長になって条例を作ろう」内の「みんなでチャレンジ」の中で紹介されており、章末や単元の最後で取扱っている。

委員

東京書籍「みんなでチャレンジ」や、帝国書院「章の学習を振り返ろう」の模範解答について、教科書内で確認できるのか、あるいは、QRコードなどを使用する必要があるのか伺いたい。

選定委員

両者とも、QRコードを使用し、模範解答の確認を行う。QRコードが使用できない場合は教員が模範解答を指導する。

委員

現代の社会問題について、2者がどのような取扱いをしているか伺いたい。

選定委員

東京書籍は、「地球社会と私たち」という単元の導入において、SDGsについて生徒たちに優先順位を設定させ、最も優先順位が高いものについて解決策を考えさせる活動を通じ、持続可能な社会について何ができるか、ということ意識させている。帝国書院は、国際社会のより良い発展という単元においてSDGsを紹介し、自分が一番取り組みたい目標を設定し、持続可能な社会に関心を持たせるようにしている。

委員

主権者教育、消費者教育、SDGs、伝統文化・宗教に関する学習について、2者の工夫を伺いたい。

選定委員

主権者教育については、東京書籍は選挙権の年齢引き下げにおいて、「18歳へのステップ」という特設ページにおいて選挙の流れを扱い、また「スキルアップ」というコーナーで様々な選挙制度を取り上げ、選挙のシミュレーションを行うことで、なぜ日本の選挙制度があるのかを考えさせるようにしている。帝国書院は、選挙制度について資料をもとに概要や課題を理解させ、選挙権を18歳に引き下げた理由について考えさせ、選挙への関心を高める工夫をしている。消費者教育については、両者ともに見開き2ページの特設ページを設け、契約について扱い、契約をする際に気をつけることを取り上げている。SDGsについては、東京書籍は、「地球社会と私たち」という単元でSDGsを取り上げ、自分たちで優先順位を考えさせ、それについて解決策を考える活動をさせている。帝国書院は、「国際社会のよりよい発展」という単元で、自分が一番取り組みたい目標について、その理由を考えさせ、関心を持たせる学習を設定している。伝統文化・宗教については、両者ともに、歴史的分野との関連を図りながら扱っている。

教育長

学習指導要領の中で、「対立と合意」「効率と公正」が挙げられているが、この点について両者はどう取り上げているか伺いたい。

選定委員

両者ともに身近な事例を挙げ、話し合い活動をさせるなどの工夫をしている。東京書籍は、1つの事例について条件設定を3回変えて、その都度話し合い活動を行う仕組みとなっている。帝国書院は、1つの事例についてロールプレイングの形式で話し合いをすることで、「対立と合意」について学ぶ形となっている。

教育長

現代の社会問題は学習の中で大きなウエイトを占めると考える。2者以外も充実しているように見受けられたが、その点について伺いたい。

選定委員

教育出版と日本文教出版、育鵬社では巻頭の見開きページでSDGsについて取り上げている。

教育長

集団的自衛権についての2者の取扱い方を伺いたい。

選定委員

2者ともに、同様の取扱いをしている。

教育長

2者それぞれの良さについて、端的に伺いたい。

選定委員

2者ともに、知識・理解、思考力・判断力・表現力、主権者教育、消費者教育などに関し、トータル的に見て、子どもたちにわかりやすい内容となっている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新しい社会 公民」4票、他は0票となり、社会 公民的分野は、東京書籍「新しい社会 公民」を採択することとする。

教育長

地図について審議及び採択を行う。

選定委員

地図の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書2者、東京書籍、帝国書院について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と帝国書院の2者とした。

東京書籍「新しい社会 地図」では、一般図のタイトルの枠内に「注目したい記号」を示すことで、その地図の読み取りのポイントを明確にし、地図を活用する能力を高める工夫がされている。世界の各州、日本の各地方の資料のページは、「基本資料」と「テーマ資料」とに分かれていて、「基本資料」では土地利用、降水量、土地断面図を載せて、その州・地方を大きく捉えられるようにし、「テーマ資料」には世界の各州や日本の各地方の課題学習をする際に役立つ資料を載せている。歴史や公民の学習と関連した資料も豊富に掲載し、歴史的分野、公民的分野に関連する資料にはマークを付けて活用しやすい工夫をしている。関連する資料が他のページに掲載されている場合は、「ジャンプ」マークによってそのページを簡単に参照でき、様々な視点から課題を追究し、課題に対して多面的・多角的に考えられるようにしている。現代的な諸課題の理解を深められるようにするために、巻頭8ページを割いてSDGsに関連した資料を掲載している。

帝国書院「中学校社会科地図」では、A4版に大判化され、地図が広域化された。世界各州の全てに鳥瞰図を入れ、地形、産物、名所、独自の文化などを大観することで一般図での読み取りがしやすくなる工夫がされている。生徒が主体的に学べる問いとして「地図活用」を94か所に設け、2次元コードを使って解答を確認できるようにしている。日本の各地方全てに、自然環境、人口、産業、交通の4つの中核となる事象の資料図を同縮尺で掲載することにより因果関係を比較・関連づけながら考察できるようにして資料活用能力を高める工夫がされている。世界全体に関するページ、日本全体に関するページでは、「学習課題」が設定され、資料を活用して課題追究・解決ができるよう工夫をしている。防災に関する資料を充実させ、

日本の7地方全てで扱い、防災への意識が高まるようにしている。生徒が主体的に学習に取り組めるようにデジタルコンテンツに接続するための2次元コードが掲載されている。

委員

教科書と異なる発行者の地図を使用することの影響について伺いたい。また、防災意識を高めるために、地図としてどのような工夫がされているか伺いたい。

選定委員

現状、教科書と異なる発行者の地図を使用しているが、そのことによって不都合がある、という意見は聞いていない。防災については、帝国書院は、日本の7地方すべてを扱う中で、防災について取り上げている。東京書籍は、すべての地方ではないものの、要所要所で防災について取り上げている。

委員

地域の中で自分の身をどう守っていくか、という点についての工夫を伺いたい。

選定委員

帝国書院では、日本の各地方において、基本図の次に資料として、自然、降水量、人口分布、産業などを同じ縮尺の地図で載せており、その地方の特色を他の地方と比較できる工夫がされている。

委員

地図帳の利用を子どもたちに促す工夫について伺いたい。

選定委員

東京書籍は、それぞれの地図に標題が付いており、その標題の中の「注目したい記号」により、ここに注目するとこの地方の特色がわかる、という工夫がされている。帝国書院は、地図以外に、世界全体あるいは日本全体を扱うページの中に学習課題が付いており、これを使って自学自習ができるようになっている。

委員

I C Tの活用について伺いたい。

選定委員

2次元コードが付いており、学習を深める資料やクイズなどのコンテンツが利用できるようになっている。特に帝国書院は、世界の州ごと、日本では地方ごとに、一般図に2次元コードが掲載されるなど、資料が充実している。

委員

選定委員が実際にコンテンツを利用して、どう感じたか伺いたい。

選定委員

両者ともに、これらのコンテンツを利用することで、社会科に興味を持つ子どもは増えるのではないかと感じた。

委員

現在使用している地図は帝国書院だが、これを東京書籍に変更した場合、生徒や教員に不都合はないか伺いたい。

選定委員

今回の採択において、社会科は東京書籍の教科書が採択されていることもあり、支障はない。

教育長

地図の活用を促すための工夫について伺いたい。

選定委員

東京書籍は、日本の分野でも世界の分野でも、一般図のタイトルの中に「注目したい記号」を打ち出しており、一人ひとり地図を眺めるときも記号に注目して見ることで、その地方の特色がわかるという工夫がされている。帝国書院は、地図活用の技能を身につけるための「地図活用」のマークがある箇所、地図や資料を活用して課題を解決したり、全体のページにある「学習課題」を自分で解決したりといった工夫がされている。

教育長

帝国書院については大判化したが、保護者からは教科書を持ち運ぶ際の重さについて意見もある。教科書の大きさや重量について、選定委員の意見を伺いたい。

選定委員

大判化のメリット・デメリットはあると思うが、大判になったことによって、1つの地図が広域化しており、他の地方との繋がりは見やすくなったと考える。また、大判になってはいるが、ページ数に変更はない。

教育長

領土問題について、改訂された点などがあるか伺いたい。

選定委員

領土問題については2者とも取り上げており、日本固有の領土として記載されている。帝国書院は、結ばれた条約ごとに、領土の地図が掲載されている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、帝国書院「中学校社会科地図」4票、他は0票となり、地図は、帝国書院「中学校社会科地図」を採択することとする。

教育長

数学について審議及び採択を行う。

選定委員

数学の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書7者、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館、数

研出版、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と新興出版社啓林館の2者とした。

東京書籍「新しい数学」では、巻頭に、「この本の使い方」「大切にしたい数学の学び方」「ノートづくり方」がまとめられている。「大切にしたい数学の学び方」では、問題解決的な学習のポイントが示され、各学習内容において、一貫した流れで構成されている。「Q」で学習のきっかけを与え、「?（クエスチョン）」で本文の学習につながるようになっている。「虫めがねマーク」で「見方・考え方」を示し、主体的に考える一助となっている。適用問題では、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために段階をおって指導できるように、また、「章の問題B」では、知識技能を活用し、思考力、表現力を高められるように記述問題を取り上げている。「深い学び」や「学びをひろげよう」では、主体的・対話的で深い学びが展開できるような題材が示され、数学と日常生活とを結びつけ数学の有用性も実感できるように構成されている。

新興出版社啓林館「未来へひろがる数学」では、巻頭に、「この本の構成と使い方」「ノートのくふう」がまとめられている。また、主に授業で使用する「みんなで学ぼう編」と、生徒が主体的に学習をしたり学びなおしたりできるようにした「自分から学ぼう編」の2部構成で、授業と家庭学習が効果的に進められるようになっている。節の導入では、「学習のとびら」を設定し、数学の意義や有用性に気づくよう身のまわりの題材などを取り上げている。学習過程を「利用場面」「ステップ1から3」の4段階に分け、問題を発見し、解決するまでの流れを示している。また、学習で生かした数学的な見方・考え方を「虫眼鏡マーク」として繰り返し示し、それらを意識させるようにしている。学びの過程を振り返って評価する「学びのあしあと」や、各章ごとに基本的な問題から応用問題までを扱う「力をつけよう」など、生徒が主体的に興味・関心を深めていける構成になっている。

委員

小・中学校の円滑な接続に関する両者の対応を伺いたい。また、川越市の数学の学力における課題である「数と式の計算領域」について、生徒がこの課題を克服するための両者の工夫を伺いたい。

選定委員

2者ともに、小・中学校の接続についての意識が感じられる。東京書籍は、「ちょっと確認 算数」が教科書内各所に設けられており、小学校で躓きの多い学習内容を、いつでも確認できるようになっている。新興出版社啓林館は、「ふりかえり算数」が教科書内各所に設けられており、既習内容が再確認できるようになっている。また、2者ともに、巻末に小学校のテスト問題も掲載されている。

また、川越市の生徒の全国学力学習状況調査の結果を見ると、特に平均大きく下

回っているのが「数と式の計算領域」であるが、計算領域については2者ともに、問題数が充実しており、指導にあたっては、原理・原則を丁寧に取扱っている。あわせて川越市については、思考力・判断力・表現力などについても課題があると考えられるが、その点についても2者ともに、見方や考え方のヒントとなるマークなどが示されており、主体的に考えることの習慣化を図ろうとする工夫がみられる。

委員

2者ともに、十分な配慮や工夫がされているということか確認したい。

選定委員

そのとおりである。

委員 高校、大学への進学、または社会人になると、データや統計、資料の集計が大切になる。その準備期間として資料やデータをどのように学んでいくのか、2者の記述について伺いたい。

選定委員

2者ともに、統計資料については原理または身近な素材など具体的なものまで、社会でどのように関わっていくかというところまで記述している。東京書籍は、統計資料に合わせて写真やイラストが工夫されており、興味関心が高まるようになっている。新興出版社啓林館では、日常生活に関連付けたものから動機づけがなされており、写真、イラスト、図が学習課題に合わせて掲載され、高校以降との関連付けが図れるようになっている。

委員

2者について、自宅での学習を促す工夫を伺いたい。また、2者のどちらが、自宅での学習により適しているかも伺いたい。

選定委員

新興出版社啓林館は、「自分から学ぼう」を特徴とし、自分ひとりでも主体的に学んでいけるような、教科書の構成としては今までにない形となっており、自分が興味を持ったものからスタートできる構成となっている。東京書籍は、章末や小単元など節目節目で問題が掲げられており、解答についても教科書の巻末に掲載されている。どのように取り組むか、どのような方法で学習を進めていくか、という点を教員が指導していけば、2者同様に、よさがあると考えられる。

委員

数学は、できる・できないの個人差が広い分野と考える。できる子ども・できない子ども、それぞれに対しての対応力という点で、2者のどちらがより融通がきくか伺いたい。

選定委員

「数と式の計算領域」の項目に関して言えば、基礎的な部分の問題が豊富に扱われ、段階を追って徐々に難しくなっていく、という構成は両者同じである。また、

章末についても、文章を読み取ったうえで判断しなければならない問題などが設定されており、学力・学習調査の出題の背景も踏まえた構成があること、主体的・対話的で深い学びを意図した題材がそれぞれの巻末に入っていることも、両者に共通している。

教育長

新興出版社啓林館については、導入部分でピタゴラスの定理を紹介するなどの工夫が充実していると感じた。東京書籍は、平方根を分数で表すことができない理由を考えさせるなど、他者にはない工夫が見受けられた。「数学的な見方・考え方を養う」という点で、2者の工夫を伺いたい。

選定委員

教科書も大事だが、指導者の意識がより大事だと考える。2者の教科書では、「数学的な見方・考え方」のきっかけや方向づけを意識させるマークが随所にあり、そのマークを意識し、着目すれば、「数学的な見方・考え方」のヒントを得られる、という点が共通しているため、そのことを指導の中で扱う必要がある。1冊を通してマークが随所にあるため、行き詰ったときは教科用図書に頼る、という指導を授業に取り入れることが大切であり、マークに目を向けさせる意識を高める指導が必要である。また、発展的な学習についても、扱い方に工夫がされており、中学校の学習指導要領をもとに、高校への繋がりや、社会との繋がりを意識した、トピック的に面白い素材がたくさん盛り込まれている。

教育長

若い教員にとっての使いやすさという点で、2者の特徴について伺いたい。

選定委員

問題解決的、という流れは両者に共通している。どの単元でも一貫して問題解決的な学習を意識した掲載がされており、教員の経験の差によらず使えると考える。ただし、新興出版社啓林館の「自分から学ぼう」をどう扱うかについては、研修を通してモデルプランなどを示していくと、効果があると考えます。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新しい数学」3票、新興出版社啓林館「未来へひろがる数学」1票、他は0票となり、数学は、東京書籍「新しい数学」を採択することとする。

教育長

理科について審議及び採択を行う。

選定委員

理科の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載されたすべての

教科書5者、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と学校図書の2者とした。

東京書籍「新しい科学」では、教科書のサイズは、現行より縦に40ミリメートル大きくなっている。視線の移動が少なく、流れがわかりやすいレイアウトになっている。教科書とウェブコンテンツにおいて観察・実験の基礎・基本を押さえたうえで、観察・実験を行えるようになっている。知識の定着については、作図や計算などに、「例題」「考え方」「練習」の項目が設けられている。観察・実験においては、話し合い活動が多く取り入れられ、また、考察の項目が細かく設定されている。教科書の構成として、観察・実験のページには結論が見られないようにしている。

「つながる科学」や「学びをいかして考えよう」では、学習内容を俯瞰し、日常生活との関わりについても学べる構成となっている。「科学の本だな」では学習内容に関連する本を紹介している。

学校図書「中学校化学」では、ウェブコンテンツを充実させ、教科書のサイズは現行より横に24ミリメートル大きくなっているが、およそ20パーセント軽量化されている。知識の定着については、「この時間のまとめ」という項目に単位時間ごとの要点が短くまとめられており、生徒がその時間に何を学ぶかが明確になっている。カラーユニバーサルデザインを含め、グラフなどは色の違いに加え線の形で区別できるようにしている。單元ごとに「Can-Do List」があり、「どのように学びに向かうか」「どのような知識・技能を身につけるか」「理解していることをどのように使うか」が示されている。「サイエンスカフェ」や「つなげて深める」などの資料では、学習を深めるために、社会や日常生活との関わりを紹介している。

委員

理科については苦手な生徒が多いと聞く。2者について、理科に対する苦手意識を無くし、楽しくするような、教科書としての工夫を伺いたい。

選定委員

わかりやすさ・楽しさという視点では、東京書籍は、マークを効果的に使っており、疑問から結論までの流れをわかりやすく示している。学校図書は、探求する部分と習得する部分が分けた形で記載されており、わかりやすく掲載されている。また、東京書籍は、マークの中で、探求の過程をわかりやすく示している。学校図書は、「Can-Do List」が非常に効果的であり、わかりやすいことが、楽しく学べることに繋がっている。

委員

子どもたちが自学自習する際の、2者の工夫について伺いたい。

選定委員

東京書籍は、縦に長い紙面となり、1つの内容が1ページの中に収められて説明されている。文章の隣に関連する資料も豊富に掲載されわかりやすくなっており、子どもにとっては自学自習する際に有効だと考える。また、問題が出て結論に至るまでの、探求の過程が丁寧に記述されており、教科書を読むだけで学習を完結できるような構成となっている。ウェブコンテンツも充実しており、躓きやすい内容も自分で学ぶことができる。学校図書は、重要な語句や概念を厳選し、1つの内容が1ページの中に収められて説明されている。ICTの教材の中でも、コラム、基本問題、アニメーション、動画などが豊富であり、教科書とあわせてQRコードを利用することで、自分で学習を進めることができる。

委員

防災や減災のための配慮について、2者の対応を伺いたい。

選定委員

東京書籍は、中学校第1学年の資料として、災害をテーマにした特集ページが設定されている。また、火山、地震、気象災害について、自然現象と関連付けて学べる資料を数多く掲載している。学校図書は、中学校第1・第2学年の関連する単元において、防災・減災の対策について調べることを設定している。中学校第3学年でも巻頭で、防災・減災に関するデータの紙面を設定している。

委員

実験が満足に行えない状況下において、実験を行わなくても内容が理解しやすくなる工夫があれば伺いたい。また、学校図書について、20パーセント軽量化したということだが、軽量化した内容について伺いたい。

選定委員

軽量化については、紙そのものの軽量化に加え、ウェブコンテンツを充実させ資料をウェブ上に移したことによる、軽量化への努力が考えられる。

観察実験に関する工夫については、各者とも実験の方法について、読めばわかるように、非常にわかりやすく掲載している。写真等をふんだんに盛り込み、結果もわかるようにされている。もちろん、実際に実験を行った方がよいことは間違いないが、どちらも十分に工夫されていると感じる。

委員

選定にあたり、東京書籍の大判化など、教科書の大きさに関する意見があったか伺いたい。

選定委員

東京書籍の形は他者、他教科になく、新しいサイズであり、レイアウトの面でも見やすくなったと考える。重さについては、縦に長くするか、横に長くするかの違いであり、さほど影響はないと考える。収まりという点で意見はあった。

教育長

子どもの鞆に入るか伺いたい。

選定委員

入ることは、問題なく入る。

教育長

2者について、自学自習する際の学びやすさという点での特色を伺いたい。

選定委員

東京書籍は、縦長のレイアウトを生かし、科学の探求の過程に沿って、視線を移すことなく縦に流れるように見られることで、見やすく、読むとよくわかる教科書となっている。学校図書は、図や写真が非常に大きく、理科が苦手な子にも大変わかりやすいつくりとなっており、自分で学習するのに大変よい。両者、それぞれによさがある。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新しい科学」4票、他は0票となり、理科は、東京書籍「新しい科学」を採択することとする。

教育長

音楽 一般について審議及び採択を行う。

選定委員

音楽 一般の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書2者、教育出版、教育芸術社について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、教育出版と教育芸術社の2者とした。

教育出版「中学音楽 音楽のおくりもの」では、ページの縁の色で、学習の内容「歌唱」「創作」「鑑賞」が見てわかるように工夫されている。目次の次ページにある「学びのユニット」では、教材曲や学習活動、学習を支える「共通事項」の音楽を形づくっている要素などが示されている。また、曲想と音楽の構造を理解し表現を工夫したり、音楽のよさや価値について自分の考えをまとめながら協働的な学習を展開したりするなど、主体的・対話的で深い学びができるようになっている。鑑賞の学習では、箏曲「六段の調」を配置することで、小学校での学習内容を生かしたり、この学習の後の「日本とアジアをつなぐ音」では、「箏」と似た楽器を学んだりする等、系統的、発展的に音楽文化への理解が深まるように工夫されている。また、ユニバーサルデザインを生かした見やすい、学びやすい表記や表現がされているとともに、生徒が教材曲に対する豊かなイメージを膨らませやすいよう、どの学年も見開きで我が国の自然豊かな風景写真などが掲載されている。

教育芸術社「中学生の音楽」では、学習内容の一覧や各ページの学習のねらいの

部分が「歌唱」「創作」「鑑賞」の学習活動ごとに3色で色分けされ、学習しやすいように工夫されている。特に、目次の次ページに示されている学習内容の一覧では「歌唱」「創作」「鑑賞」で身に付ける思考力、判断力、表現力、知識・技能の学習内容と各教材、音楽科の学習を支える〔共通事項〕との関わりをわかりやすく示し、見通しをもって主体的な学習ができるよう工夫されている。「深めよう！音楽」では、段階的に学んだり、意見交換をしたりできるような内容となっており、主体的・対話的で深い学びを実現しやすくなるよう工夫されている。また、2・3下では、ポピュラー音楽のジャンルについて海外編と日本編、SDGsなどを扱い、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わるができるように工夫されている。教科書全体が糸綴じであり、また、写真も効果的に用いられるとともに、UDフォントが多数用いられるとともに、楽譜中の歌詞も使用されている。

委員

2者の大きな違いについて伺いたい。

選定委員

音楽の学習を支える「共通事項」の扱いや見せ方が異なっている。「共通事項」とは、例えば、リズムや速度、強弱のことであり、音楽家の思考・判断・表現のもととなるものである。例えば、リズムを少し早く、または遅くしてみると思考・判断することで、表現を工夫する。これが音楽家の思考・判断・表現となるが、その「共通事項」の示し方が異なっている。教育芸術社は、一覧表があり、「共通事項」と学習指導要領の指導内容、教材との一覧が一目でわかるよう、目次の次ページに示されている。また、各教材のページの左側に、「学習目標」、その下に「共通事項」を具体的に挙げている。このことが、生徒が「学習目標」のために、強弱や形式について考えるポイントとなり、思考・判断のヒントになる。教育出版は、「共通事項」は、目次の次ページの「学びのユニット」で円形状に並んでおり、これが特徴である。

委員

音楽 一般の教科書について、現在は教育芸術社の教科書を使用していると思うが、異なる発行者の教科書が採択された場合に、支障がないか伺いたい。

選定委員

基本的には問題ないと思うが、教材によって取扱う楽曲が異なるため、教員はよく確認したうえで、学びの継続性や、既習教材の確認など、研究を行う必要はある。

委員

教員側で対応できる範囲の影響ということか確認したい。

選定委員

そのとおりである。

委員

教育出版について、箏曲「六段の調」を配置し小学校での学習内容を生かす、とあったが、具体的にはどのようなものか伺いたい。

選定委員

例えば、小学校では「さくら変奏曲」「春の海」という箏曲を扱っているが、中学校でも、箏曲の「六段の調」を探求し、学ばせる。

委員

音楽文化と豊かに関わる資質の育成という観点で、2者の工夫を伺いたい。

選定委員

音楽文化との関わりについては、新学習指導要領でも目標として掲げられている非常に大事な部分である。2者とも、そこに焦点を当て、学校の中だけで終わることなく、社会の中の音楽文化と関わるような教材を準備している。教育芸術社は、ポピュラー音楽を始め、非常に多様な音楽との関わりを、ページを割いて示している。

教育長

教育出版の「学びのユニット」について、どのように活用するのか伺いたい。

選定委員

ページの左上に教材名があるが、この楽曲を学ぶときに、構成・音色・リズム・強弱・旋律などの「共通事項」に焦点を当てて、思考・判断をなささいというものである。例えば、「強弱」は、「あなたはどのように強弱を考え、表現するか」というヒントであり、これが教材ごとに示されている。8つの共通事項が、円形に上下4つずつ、濃色淡色で示されている。教育出版は、これらの内容が各教材のページの中で示されており、教育芸術社は、一覧表とともに内容が示されている、という特徴がある。

教育長

若い教員が教える際の、使いやすさについて伺いたい。

選定委員

「共通事項」のどこに授業のポイントを絞るかが重要だが、教材ごとにそこがわかると、教員も生徒も焦点化しやすいため、指導しやすく、また学びやすいと考える。

教育長

タブレット端末の活用について伺いたい。

選定委員

2者ともに、QRコードなどによって、音楽資料にアクセスできる。

教育長

「君が代」の指導について伺いたい。

選定委員

2者ともに、全学年で取扱っている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、教育芸術社「中学生の音楽」3票、教育出版社「中学音楽 音楽のおくりもの」1票、他は0票となり、音楽一般は、教育芸術社「中学生の音楽」を採択することとする。

教育長

音楽 器楽合奏について審議及び採択を行う。

選定委員

音楽 器楽合奏の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書2者、教育出版、教育芸術社について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、教育出版と教育芸術社の2者とした。

教育出版「中学器楽 音楽のおくりもの」では、表紙を開くと、様々な演奏形態の写真が見開きで掲載されている。また、「心をこめて」では、箏と篠笛の家元から中学生へメッセージがあり、より日本の音楽を身近に感じることができるようになっている。学習のねらいがそれぞれの内容に示されるとともに、その学習のゴールとして「まとめの曲」が示されている。アルトリコーダーの導入に際し、ソプラノリコーダーから抵抗感が無く学べるよう工夫されている。また、各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストでわかりやすく示されている。和楽器の教材では、唱歌(しょうが)を表記することで、日本の音楽文化や伝統を体験することができるよう工夫している。「合わせて演奏しよう」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現できるよう配慮されている。

教育芸術社「中学生の器楽」では、目次の次ページに示されている学習内容の一覧には、「器楽」「創作」で身に付ける思考力・判断力・表現力、知識・技能の学習内容と各教材、音楽科の学習を支える「共通事項」との関わりをわかりやすく示し、見通しをもって主体的な学習ができるよう工夫されている。目次の前に、活躍しているピアニストや文芸批評家から、器楽に関する生徒達へのメッセージがあり、器楽分野の「学びに向かう力」等の育成を後押し、幅広い価値観を養うことができるように工夫されている。リコーダーのチューニング、タンギング、アーティキュレーションなどの説明や技能習得手立てがわかりやすく示されているとともに、難易度ごとに選曲されている。また、ギター、和楽器、打楽器の各楽器の音色や響き、奏法について詳しく触れるとともに、アンサンブル楽曲も複数示されている。

委員

音楽 一般と音楽 器楽合奏で異なる発行者の教科書となった場合に、支障がないか伺いたい。

選定委員

学習する際に支障はないが、学習のねらいなどの考え方については、きちんと説明し、学ばせる必要はあると考える。

委員

異なる発行者の教科書が採択された場合、同じ発行者の教科書が採択された場合よりも、教員側の負担は大きいということか伺いたい。

選定委員

年間指導計画の作成や、生徒に対する教科書の中でのアプローチの仕方などの質が、異なってくると考える。

委員

2者の大きな違いについて伺いたい。

選定委員

教育芸術社は、「ねらい」と「共通事項」と楽曲が、それぞれ整理され示されており、「共通事項」が学習するページに示されている。教育出版社は、音楽 一般で紹介した「学びのユニット」は示されていないが、楽器ごとの難易度が、楽曲中心に編集されている。

委員

日本の伝統芸能の扱いについて伺いたい。

選定委員

和楽器として取扱っているが、2者ともに、写真や基本的な演奏方法などが丁寧に詳しく示されている。

委員

中学生が実際に和楽器を演奏する機会があるのか伺いたい。

選定委員

機会はある。箏や琴、和太鼓が特に多い。三味線についても、学校に置いている・いないはあるが、教育センターで三味線の貸出しを行っており、多くの学校がその貸出しを利用し、演奏の実践を行っている。

委員

今回の採択によって、現在使用する教科書と異なる発行者の教科書となった場合、中学校第1・第2学年については、3年間使用する教科書が途中から変わるようになるが、支障がないか伺いたい。

選定委員

2者ともに、アルトリコーダー、ギター、和楽器など楽器ごとに分けた編集となっている。そのため、第一学年ではギター、第2学年では三味線など、楽器の選択

をしながら年間計画の作成を行うことで、支障はないと考える。

教育長

川越市の中学校における和楽器の取扱いについて伺いたい。

選定委員

全校の年間指導計画できちんと位置づけており、3年間で必ず1種類以上の和楽器を学習させている。教育センターでは、箏、三味線、和太鼓の貸出しをしており、22校が順番で借りながら、確実に実習を行っている。

教育長

和楽器の指導について、2者の特色を伺いたい。

選定委員

2者のアプローチこそ異なるが、各楽器、基礎的・基本的な奏法については、ページを割いて丁寧に解説している。篠笛や尺八、三味線に関しても、中学校で子どもが初めて取り組む楽器なので、2者ともに、非常に丁寧に説明している。

教育長

2者の特色を端的に伺いたい。

選定委員

教育芸術社は、「共通事項」と関わり合いながら、授業としてのポイントをどう絞るか、という点を示す部分が多様にある。教育出版は、リコーダー、箏、尺八、三味線など、楽器ごとのページ作りを行っている。

教育長

教育芸術社の本の作りについて、譜面台に置いた際の開き方に特徴があるように感じた。

選定委員

教育芸術社は糸綴じとなっており、教科書に角度をつけ大きく開くことができ、譜面台に置きやすい作りとなっている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、教育芸術社「中学生の器楽」4票、他は0票となり、音楽 器楽合奏は、教育芸術社「中学生の器楽」を採択することとする。

教育長

美術について審議及び採択を行う。

選定委員

美術の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書3者、開隆堂出版、光村図書出版、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき

教科書を、開隆堂出版と光村図書出版の2者とした。

開隆堂出版「美術 発見と創造」では、各題材が見開きで見られるようになっているとともに、同一題材に全観点による目標が設定されている。また、多様な表現技法を用いた作品を掲載したり、意図的に大きさや明度・彩度など変化をつけたレイアウト構成となっている。また、全ページに作家作品や制作過程、作者の言葉や作家の様子が見える写真などを掲載するとともに、作家自身についてや「作品への思いや考え」、「表現意図」について、一人ひとりの生徒が自分の考えを広げ、深く考えられるような工夫がされている。基礎的・基本的な技能の習得や材料・道具の扱い方などについては、巻末の「学びの資料」やQRコードに、写真や図版を用いてまとめている。この他、QRコードは美術館ホームページとつながるようになっており、生徒が最新の美術情報や専門的な知識による鑑賞をしたり、美術館を身近に感じたりできるような工夫がされている。これらにより、生徒の実態や授業者が身に付けさせたい力に応じて題材設定を工夫できたり、一人ひとりの生徒が自由に発想を広げたりする等、主体的に学べる授業ができるようになっている。

光村図書出版「美術」では、各題材が見開きで見られるようになっている。作品の色みや特徴に着目できるように余白を大切に視覚的効果を用いたページ構成、各ページが授業の流れに沿った構成等の工夫がされている。基礎的、基本的な技能の習得や材料・道具の扱い方などについては、巻末の「学習を支える資料」やQRコードに、写真や図版を用いてまとめている。また、谷川俊太郎の「うつくしい！」という詩を、各学年で部分的に分けて扱えるような工夫があり、3学年を通して指導できるようになっている。なお、専門知識や作品の評価解説、手順説明、スケッチのモデルに活用できる自然や動植物の写真、「道徳とのつながり」としての内容項目別の提示、実寸大の作品が掲載されている。異なる紙質を用いたページ構成もある。このほか、QRコードは全て同じコンテンツにつながり、授業に応じて自由に作品を選択し、教科書以外の作品を鑑賞したり、立体作品を360度の角度から鑑賞したりできる工夫がなされている。

委員

美術においては、発想力・想像力の育成が大事だと考えるが、その点に関する工夫や支援について、どういったものがあるか伺いたい。

選定委員

開隆堂出版は、掲載作品にレイアウト的な大小の工夫があり、1題材につき複数のページを設け、多様な表現方法の作品を掲載している。生徒や著名な作家の作品全てに、作者の言葉を添えた「発想のヒント」や、関連する作家や題材についての知識・情報コラムもあり、生徒の発想、構想を刺激するような作りとなっている。光村図書出版は、詩や、心に語りかける言葉・文章を題材ごとに掲載し、生徒や作家による作品を図案とともに示し、スケッチやメモをあわせて配置し、生徒の発想

や構想を支援する工夫がある。

委員

日本の伝統文化について、どう取り上げているか伺いたい。

選定委員

開隆堂出版は、鳥獣図屏風、祭りの造形、名古屋城本丸御殿、絵巻物の世界、伝統工芸などを、写真を中心に取扱っている。光村図書出版は、鑑賞の分野で、風神雷神、富岳三十六景、鳥獣戯画などを取扱い、見開きのページなど見せ方を工夫しながら、伝統文化の良さを示している。

委員

発行者によって分冊数が異なるが、そのことによる内容的な支障がないか伺いたい。

選定委員

作品数を比較すると、開隆堂が995点、光村図書出版が1,500点、日本文教出版が832点であり、量的な視点では各者とも問題ない。作業の段階や事例の示し方で、分冊数の違いが出ている。

委員

2者について、教科書の大きさが異なるが、使用するうえでの違いについて伺いたい。

選定委員

多くの学校において、美術室の机は大きいということもあり、教科書の大きさの違いによる、使い勝手の良さあしはないと考える。

教育長

学習指導要領が示す「育てたい3つの資質」について、各者がどう扱っているか伺いたい。

選定委員

光村図書出版は、各作業工程が詳しく、具体的に掲載されており、どのような作品を作っていくのかがわかるようになっている。開隆堂出版は、具体的な作業の順番はあまり示していないが、同じ主題でも複数の事例や表現方法を掲載し、どうやってこのような作品を作ったらよいのか、という大雑把な作業の示しによって、子どもたち自身が、どうアプローチをしたらよいか考える部分を多く提供している。日本文教出版では、3分冊ということで、多彩な写真資料、具体的な作業工程の掲載など、網羅的な印象である。学習指導要領の示す資質の育成という点では、開隆堂出版は、川越市の子どもたちに必要とされている内容であると考えます。

教育長

川越市の美術における学習の課題については、発想力や想像力である、という教員の声を聞く。教科書の中で、作品を作る際の手順が示されすぎると、教科書と同

じ作品を、作ろうとしてしまうというきらいがある。作品の掲載数については、多ければよいというものではないと考えるが、掲載作品の質について伺いたい。

選定委員

作品数では、光村図書出版は約1,500点と非常に多くなっているが、内訳として、生徒の作品や作成過程の掲載が非常に多い、というのが特徴である。開隆堂出版は、掲載作品のうち、著名な作家の作品が約400点掲載されているのが特徴である。日本文教出版は、約800点と最も少ないが、生徒作品と作家作品を同様の割合で掲載している。

教育長

開隆堂出版について、木の工芸の箇所、木目の美しさを感じられるような写真を掲載するなど、配慮が感じられた。

選定委員

著名な作家の作品には、子どもたちの心を惹くものが多々ある。そうした作品に接することで、子どもたちの発想力や、美に対する思いを持つことに繋がればと考える。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、開隆堂出版「美術 発見と創造」4票、他は0票となり、美術は、開隆堂出版「美術 発見と創造」を採択することとする。

教育長

保健体育について審議及び採択を行う。

選定委員

保健体育の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書4者、東京書籍、大日本図書、大修館書店、学研教育みらいについて、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と学研教育みらいの2者とした。

東京書籍「新しい保健体育」では、各章の扉に、小・中・高等学校の学習内容が示されており、学びの系統性が一目でわかる。学習の流れは、見開きページを1単位時間として、4つのステップで段階的な取組や主体的な学習を進める構成となっている。「見つける」で課題を把握し、「課題の解決」で本文や資料から学ぶ。

「活用する」で学んだ知識を活用して他者に説明したり、話し合ったりする活動を展開する。「広げる」で自分の生活に生かしたり、興味関心に応じてさらに調べたりする活動を行う等、思考力、判断力、表現力の育成を図る。学習活動に関連する多様な動画や映像がデジタルコンテンツとして50以上用意されており、生徒の興味関心を高めると共に知識や技能を習得しやすくなっている。新学習指導要領に示

された「がん教育」や現代的課題でもある「熱中症」は、予防や対応について項目立てて示されている。章末には、「確認の問題」により、基礎的・基本的な知識の定着を確認できるようになっており、自己評価の欄も設けている。

学研教育みらい「中学保健体育」では、学習の流れは、自然に課題解決的な学習が進められるように、見開きページを1単位時間として、4つのステージで構成される。「学習の目標」「課題をつかむ」では、本時の学習課題を確認しその解決に向かい基礎基本を学ぶ。「考える・調べる」では、知識や情報を基に調べたり話し合う。「まとめる・深める」では、人に伝えたり、実生活につなげる。特に現代的な課題である、いじめ・災害・がん教育、熱中症、放射線、臓器移植等においては、各章の最後にある「探究しようよ！」のコーナーでも取り上げ、命と人権を踏まえて大切に扱い生徒のより深い学びにつなげるための工夫がされている。また、「章のまとめ」では、各自で自主学習ができるような問題形式で基礎基本となる知識について確認できる構成となっている。生徒が興味・関心を持って主体的に学習に取り組めるよう図表や写真、イラスト等が適所に使用され、関連のウェブサイトを紹介し、インターネットで調べ学習ができるようになっている。

委員

感染症について、2者の取扱い方を伺いたい。

選定委員

両者取扱っており、様々な感染症の、病原体と主な症状が取り上げられている。東京書籍及び大修館書店は、飛沫感染について図と補足説明を用いて、より詳しく取り上げている。東京書籍は、動画を使って学べるほか、写真を用いて手洗いの仕方が掲載されている。学研教育みらいは、関連のウェブサイトを紹介しており、それを使って調べ学習ができる。

委員

東京書籍について、関連ウェブサイトを紹介する仕組みはないということか伺いたい。

選定委員

ウェブサイトの紹介はないが、教科書独自の動画が30本、デジタルコンテンツが50本と、他者よりもかなり多い。他者は、動画の数はひと桁だが、リンクされたウェブサイトを利用する形である。

委員

他分野・他領域との関連について伺いたい。

選定委員

各教科書で横断的な学習として、関連するウェブサイトにおいて、データの共用箇所が示されている。

委員

発行者が同一の教科書であれば、他分野でも繋がることができるということか伺いたい。

選定委員

そのとおりである。

委員

思考力・判断力・表現力を育成するための工夫について伺いたい。

選定委員

東京書籍は、他者と、説明したり話し合ったりする活動を、より多く取り入れている。学研教育みらいは、他者との意見交換が行われるような教材が、豊富に設定されている。

委員

本文の内容理解を助けるデータの掲載について、教科書内の掲載数を伺いたい。

選定委員

東京書籍は116点、大日本図書は77点、大修館書店は79点、学研教育みらいは74点である。

委員

2者の掲載データについて、掲載量以外の視点を含め、選定委員の考えを伺いたい。

選定委員

東京書籍は、データ数が非常に多い点は長所である。学研教育みらいは、「探究しようよ！」において、章末部分で、こういう点を調べてみようというデータを掲載しており、深く学べる部分があると考え。掲載データについては、数だけでなく、中身を見ないと判断できない部分はある。

委員

日常生活に生かしていくための工夫について伺いたい。

選定委員

各者とも、知識だけを習得するのではなく、それを使った実験・実習についての写真、図や動画を掲載している。

教育長

がん教育の扱いについて伺いたい。

選定委員

各者において、がんの予防を取り上げている。大修館書店、大日本図書及び学研教育みらいは、がんの補足資料を取り上げており、最も詳しく取り上げているのは学研教育みらいであった。学研教育みらいは、早期発見・治療だけでなく、がん患者との共生、がんに関わった人にどう対応したらよいかを考えるコーナーがある。がん教育について、関連のウェブサイト調べ学習ができるのは、学研教育みらいと

大修館書店の2者である。

教育長

心肺蘇生法、AEDの使用に関する扱いについて伺いたい。

選定委員

心肺蘇生法については、胸骨圧迫法や人工呼吸の仕方など各者で取り上げている。東京書籍、大修館書店は、動画を見て学ぶことができる。学研教育みらい、大日本図書は、写真で手順が掲載されている。また、大修館書店と学研教育みらいは、さいたま市の「ASUKAモデル」を掲載している。

教育長

性に関する指導に関し、LGBTについて各者の取扱いを伺いたい。

選定委員

これまで「男の子」「女の子」と表記していた箇所を、「相手」という表記に置きかえるなど、LGBTを意識した記述は各者に見られる。特に学研教育みらいは、他者よりも多く「相手」という表現を用いており、LGBTや人権に関し配慮されていると感じた。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、学研教育みらい「中学保健体育」4票、他は0票となり、保健体育は、学研教育みらい「中学保健体育」を採択することとする。

教育長

技術・家庭 技術分野について審議及び採択を行う。

選定委員

技術・家庭 技術分野の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書3者、東京書籍、教育図書、開隆堂出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と開隆堂出版の2者とした。

東京書籍「新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」では、各内容が「理解する」「問題解決に取り組む」「つなげる、広げる」の3部構成となっている。1ページあたりの情報量が豊富で、生徒の興味・関心や理解度を高めることができるようになっている。各内容の始めには、「技術の見方・考え方」「発見、技術の最適化」が用意されていて、様々な側面から技術を考えたり、理解したりすることができるようになっている。また、学校の実態によって選択できるように複数の問題解決例と資料が取り上げられている。「技術の匠」を設け、先人の苦労や発見に気付き、学習内容を深めることができるような工夫がある。

「問題解決例」の部分では、製作例が1ページずつ紹介されていて、材料取り図や

部品表、製作の手順、さらなる工夫について記載されている。さらに「環境」「技術の天びん」等のマークで、現代社会が抱える問題点や疑問点を示し、SDGsの目指す持続可能な社会について考えるように工夫されている。

開隆堂出版「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」では、「技術・技能の基礎基本」「問題発見、計画立案、活動の評価・改善」「技術の評価・活用」のまとまりで構成されている。また、問題の発見、課題の設定、判断の条件を考えやすいように構成され、各内容とも最初に基本的な知識の学習を行い、その後問題解決の手順、技術による問題解決について学習できるようになっている。ページの下「豆知識」で学習内容をさらに深化させる工夫がされている。各内容の始めには、技術の歴史が示されており、巻末資料には学習を振り返る特集やコンピュータの基本操作が掲載されている。学習の目標や関連するページ等が一目でわかるようにマーク類が使われている。例えばトレードオフのマークでは、技術の最適化の視点を示し、技術と社会や環境との関わりについて意識をもつことができるように工夫されている。さらに、各内容の最終章に今まで取り組んできた技術を振り返り、技術の見方・考え方について知り、技術の役割について考えることができるように工夫されている。

委員

情報モラル教育の取扱いについて伺いたい。また、「ものづくり」に関する構成の割合が減少しているように感じるが、その点の扱いについても伺いたい。

選定委員

東京書籍は、便利で快適な社会や生活を支える技術の情報について、プラス面・マイナス面を示しながら、事例を紹介している。インターネットや情報機器の特性を踏まえて、情報モラルや知的財産権についての説明を、写真やイラストを使い分け、わかりやすく提示している。開隆堂出版は、情報発信をする際の情報モラルという視点で、個人情報やプライバシーの保護などについて、事例を紹介している。知的財産の保護と活用についても、事例を示しながらページを割いて、詳しく取扱っている。また、情報モラルにはセキュリティとの兼ね合いもある。東京書籍は、情報モラルを先に学んでから、情報セキュリティを学ばせる構成である。開隆堂は、情報セキュリティから入り、情報モラルを学ぶ構成である。

「ものづくり」については、東京書籍は、技術分野のガイダンスの中で、「技術の歴史と現在」としてわかりやすく説明している。特に、伝統文化のマークを付けたたり、「技術の匠」という欄を設けたりし、日本のものづくりの技術について説明を行っている。開隆堂出版は、各編の最初の、技術に関する世界の歴史の一覧表の中で、日本や日本人の技術や発明、開発について、わかりやすく記載されている。巻末では伝統的な技術や材料、工法を紹介している。

委員 情報セキュリティについて、3者の取扱い方を伺いたい。また、東京書籍

について、1 ページ当たりの情報量が豊富であったが、煩雑になり、学ぶべきことが見えづらくなることがないか確認したい。

選定委員

情報セキュリティの取扱いについて、東京書籍は、情報セキュリティ技術について、認証システムやセキュリティシステムのためのソフトウェア、ファイアウォール、フィルタリングについてわかりやすく説明している。開隆堂出版は、不正な利用・侵入を防ぐための個人認証、コンピュータウィルスの被害の例やファイアウォールの仕組み、フィルタリングについて、イラストや参考資料を基に説明している。教育図書は、IDやパスワードなどの個人認証技術、ファイアウォール、フィルタリング、生体認証などについて説明している。3者とも、情報セキュリティの取扱いについて大きな差はなく、中学生でも理解しやすいような説明となっている。

また、東京書籍の1 ページあたりの情報量の件については、例えば、「1 編 材料と加工の技術」の「1 章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み」の「2 木材、金属、プラスチックの特性」の項目において、「技術のとびら 木材の特性」で、木材の特性が詰め込まれたページを設けている。また、同項目内の「技術のとびら 金属の特性」及び「技術のとびら プラスチックの特性」では、木材と同様、金属やプラスチックの特性を、見開きで取扱っている。開隆堂出版は、木材の特性を、見開きで数回取扱っている。東京書籍は、1 ページあたりの情報量の密度は濃いですが、見開きでコンパクトな見せ方をしており、生徒にとっては、木材、金属及びプラスチックそれぞれの特性を理解しやすい構成となっている。

教育長

プログラミングについて、3者の取扱い方を伺いたい。

選定委員

東京書籍は、プログラミングの体験学習や、計測・制御システムに関する学習を行う。また、資料として、これからの社会を作るうえでのプログラミングの重要性がわかるような、簡単なプログラミングができる別冊付録が付いている。教育図書は、特集欄で「プログラムを学ぼう」を設け、プログラミング言語の学習に加えて、簡単なプログラムを実際に作成するデータを体験できるようになっている。開隆堂出版は、コンピュータのプログラムやプログラミング言語について学習するとともに、巻末の資料の中で、コンピュータの基本操作やプログラミングの基本操作を詳しく紹介している。3者ともプログラミングについて、紙面を割いて詳しく説明している。

教育長

2者について、東京書籍は、コンピュータの仕組みはそれほど詳しく扱わず、モラルを含めた使い方についてより力点を置いているように感じられる。開隆堂出版は反対に、コンピュータの仕組みや機能について、詳しく掲載している。川越市の

子どもたちに学ばせるという視点では、どちらに力を入れるのか伺いたい。

選定委員

教育現場においても、SNSの利用や、スマートフォンなどの機器使用に関して、いろいろな課題を抱えており、それらの機器を使用する前に、まずモラルが必要と考えている。モラルがなければ、いくらコンピュータの中身を知ったとしても、子どもたちの将来を明るくすることは難しい。東京書籍の、モラルの教育から入ったうえでどうコンピュータを扱うかに触れ、学習を進めるという流れは、川越市の子どもたちが大事なことを学べると考える。

教育長

「モラルが先か、コンピュータの仕組みが先か」、この点について、教育委員からの意見を伺いたい。

委員

今の子どもたちは、機器のオペレーションは得意だが、コンピュータ自体の仕組みや危険性を知らないので、仕組みについて詳しくなるのも良いと感じる面もある。どちらが先か、という点に大きな違いがあるのか伺いたい。

選定委員

将来的にはコンピュータの仕組みを理解するというのも大事だが、現在の中学生にとってどちらをより学ばせたいかと考えたときに、まずモラルを押さえないというのは、学校現場の感覚である。

委員

情報機器は利便性が高いが、いじめや人の命に関わる可能性もある。利便性は、使用中でも自然と覚えていくため、モラルを先行で教え、そのうえでこういう仕組みだと教えるべきと考える。

委員

子どもたちだけでなく保護者も含めて、インターネット社会や情報モラルについて学ぶべきと考える。今の保護者世代には、情報モラルなどの知識があまりない、または教わる環境になかった人も多く、子どもたちに対しては、その部分を学校で教育してほしいと考える。個人的には、モラルを重視すべきで、使い方などは使っていく中で覚えていくのでないかと考える。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」4票、他は0票となり、技術・家庭 技術分野は、東京書籍「新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」を採択することとする。

教育長

技術・家庭 家庭分野について審議及び採択を行う。

選定委員

技術・家庭 家庭分野の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書3者、東京書籍、教育図書、開隆堂出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と開隆堂出版の2者とした。

東京書籍「新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」では、配列を「食生活・衣生活・住生活」「消費者生活と環境」「成長と家族・地域」の順にすることで、自己の衣食住の基礎的な知識や技能を身に付け、消費者生活や環境との関わりを深めることで家族や地域との共生に係る内容へと広げていく特徴がある。知識及び技能を習得させるために、身に付けさせたい技能を「いつも確かめよう」に掲載し、編の終わりに「学習のまとめ」を設けることで節目ごとに学習内容を確認できるようになっている。思考力、判断力、表現力等を育成するために、様々な場面で思考ツールの例を提示し、個人やグループの思考を促すきっかけが示されている。「せいかつメモ」や「プロに聞く！」により、学んだ内容について興味をもち、現代的な諸課題や国際社会の中の日本の伝統・文化への理解を深めるとともに、将来や社会につながりをもたせるようにしている。

開隆堂出版「技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生」では、見開きで見通しをもって学習できるよう工夫されている。また、「小学校での学び」を記載し、既習事項の内容確認から学習を進めることで生徒が主体的に学習に取り組めるようにしている。知識及び技能の習得のため、導入時に、興味・関心をもたせ、学習の目標や課題を明確にし、学習についての意欲を高め、学ぶべきことを焦点化するよう構成されている。自らの考えを深め、思考力、判断力、表現力等を育成するために、「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」など多様な学習活動場面を設けている。学習ごとに「持続可能な家庭生活・食生活・衣生活・住生活、そして持続可能な社会」を設定し、持続可能な開発目標の該当するアイコンを掲載し、現代社会の課題に目が向くようにしている。

委員

東京書籍の、「地域を見つめなおそう」のような、自分の住む地域の文化や理解を深めることは大事だと考えるが、地域を知るという点について、2者の取扱い方を伺いたい。

選定委員

家族や地域の方たち、共生の扱いについて、東京書籍は、世代の異なる人、障害のある人・ない人、様々な国籍の人、異なる文化や言語を持つ人など、周囲の人との共生の大切さを感じられるような構成になっている。また、男女共同参画社会に

ついて、イラストや写真における男女の服装や発言内容が、性別によって固定されない様、配慮されている。開隆堂は、男女の区別や障害の有無にかかわらず、幼児から高齢者まで全ての方が平等であることを前提に、記述、課題の設定、写真や図が工夫されている。

委員

食文化について、2者の取扱い方を伺いたい。

選定委員

学習指導要領において、衣食住の中の「食」の役割と中学生への影響は明記されており、各者とも掲載に工夫が見られる。特に、「日本の食文化」という点について、東京書籍は、「日本の食文化と和食の調理」として、伝統文化に視点を置いた学習の拡張が図れる。開隆堂は、日本各地の郷土料理など、学習内容と伝統文化を関連させた記載がある。

委員

子どもたちが、未来に向かってどう生きていくかについて、SDGsの教育も含め、実践的な態度を養うための2者の工夫を伺いたい。

選定委員

技術家庭科の目標では、「生活を工夫し創造する資質・能力を育成する」とある。未来を創造するという点については、持続可能な社会についてそれぞれ提言されており、東京書籍は、各編の最終節において、持続可能な生活について考えさせることで、その社会の構築に寄与する態度を養うことができるように工夫されている。開隆堂は、持続可能な社会の実現に向けて、SDGsの知見を根底に据えながら、生徒が自立した消費者としての判断力を育成できるよう、各章末に小単元を設定するなど、繰り返し記事や設問を設定するように工夫されている。

委員

2者について、防災・減災教育の取扱い方を伺いたい。また、生徒を一消費者として見たときの、お金の使い方に関する教育などについて、工夫や特徴があるか伺いたい。

選定委員

防災・減災の教育については、東京書籍は、巻末の付録として「防災・減災手帳」が付いている。家庭分野においても、防災・減災について学習したり、防災マップを設けて防災・減災に関する内容を随所に取り上げたりするなど、関心を高める工夫がされている。開隆堂は、防災に関する特設ページにおいて、日常的な備えの重要性や、防災関連の実習、制作の例などを示すことで、知識を得る機会を設けている。

消費生活については、東京書籍は、生活者として自立するために必要な意思決定のプロセスを明確に示し、食生活・衣生活の学習においても取扱うことで、意思決

定能力を身につけられるように工夫されている。また、イラストや漫画、デジタルコンテンツなどでも示すことで、関心を持って学べる工夫もある。開隆堂は、話合いやロールプレイングなどの演習を行うことで、自分のこととして学べるように工夫されている。また、「環境マップ」を設けることで、消費生活や環境資源、エネルギーなどについて、内容を貫いて考える機会を設定している。

委員

3者について、資料の量や取扱い方に違いがあるが、その点について選定委員の意見を伺いたい。

選定委員

資料の量については、東京書籍は、技術分野と同様、豊富に掲載されているという意見である。見開きの中で、取扱う問題に関する情報源が豊富に掲載され、その中から学習の仕方や方法によって取捨選択ができ、子どもたちが自ら選ぶことができる良さがある。

教育長

家族や地域の人たちとの関わりや共生について、各者の特色を伺いたい。

選定委員

家庭分野の目標に、「自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考える」「その関わりを通して、よりよい生活の実現、実践的な態度を養う」ということが明記されている。その目標に基づき、障害の有無や様々な国籍、地域社会などによらず社会の中で貢献ができること、よりよい社会の実現のためにどうしたらよいか、という点はどの教科書にも記載されている。男女共同参画社会について、東京書籍は、イラストや写真の、男女の服装や発言が男女の役割の固定にならないような配慮がある。開隆堂も同様に、男女の区別や障害の有無に関わらず、幼児から高齢者まで全て平等であるということを前提にした、写真や図が掲載されている。

教育長

生活の自立に必要な、基礎的・基本的な技能の習得に関する工夫という点での2者の検討事項について、改めて伺いたい。

選定委員

東京書籍は、実習ごとに、基礎技能のページ「いつも確かめよう」というコーナーを設け、基礎的・基本的な技能について、写真や図などを用いて示している。また、それぞれの編の終わりに学習のまとめとして、「学習を振り返ろう」や「学習したことを確かめよう」、「大切な用語」という項目があり、学習の確認ができるようになっている。開隆堂は、学習を振り返るための記入欄や、学習指導要領A～Dの内容理解を確かめるための「学習のまとめ」が掲載されている。また、見開き1ページが1時間の授業に該当しており、目標、課題、学習項目及び学習活動の見通しが持てるように構成されている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、開隆堂出版「技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生」4票、他は0票となり、技術・家庭 家庭分野は、開隆堂出版「技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生」を採択することとする。

教育長

英語について審議及び採択を行う。

選定委員

英語の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書6者、東京書籍、開隆堂出版、三省堂、教育出版、光村図書出版、新興出版社啓林館について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と開隆堂出版の2者とした。

東京書籍「NEW HORIZON English Course」では、各単元は、「Preview」で新出表現の使用場面や目的を捉え、「Story」で本文の概要を理解させ、「Practice」で新出表現を定着させるようになっている。単元途中の「Mini Activity」、単元末の「Unit Activity」、学期末の「Stage Activity」という順で、知識・技能を段階的に育成し、4技能5領域をバランスよく習得できるように構成されている。各学年の「Unit 0 (ゼロ)」では、第1学年は小学校の、第2・第3学年は前学年の復習ができる。題材は多様な内容が扱われており、イラストデザインも小学校から一貫している。小学校での学習内容をアイコンで示し、小学校での既習事項が一目でわかるようになっている。各単元にあるQRコードによって、単語や本文の音声やアニメーションを再生できるようになっている。

開隆堂出版「SUNSHINE ENGLISH COURSE」では、各単元は、「Scenes」でマンガを用いて新出表現を視覚的に理解し、「Think」で本文の内容理解、「Retell」で内容の言い換えを行い、「Interact」で必然性のある場面設定でのやり取りを行うことを通して、4技能5領域をバランスよく育成できる構成になっている。また、学期末に行う「Our Project」では、既習事項を統合した活動を通して思考力、判断力、表現力を高められるようになっている。題材も、日本の伝統文化、国際理解、SDGsなど多面的かつ世界的な視野で取り上げられている。中学校入門期には、小学校での既習事項を定着させるための「Get Ready」が設けられている。QRコードを用いて新出語句・本文の音声を用いた自主学習を行うことができるようになっている。

委員

小学校で使用している教科書と、発行者が異なる場合に支障があるか伺いたい。
また、川越市の生徒は、書くことの領域に関わる問題や、記述式問題の正答率が低いということだが、川越市の生徒たちにとって最適な教科書とはどのようなものか伺いたい。

選定委員

小学校との教科書発行者の違いについては、支障はないと考える。各教科書の研究結果の報告において、それぞれの良さが記載されており、小学校での学習内容を繋ぐ補助教材もあるため、発行者による違いはないと考える。

書くことの課題については、表現力という面でもあるが、東京書籍は、各単元の「Mini Activity」「Unit Activity」で学習内容の確認、「STAGE ACTIVITY」で学習成果の確認ができるようになってい
る。また、本文の「3段階読み」により大意把握から自己表現する段階を丁寧に扱うことで、書くことに繋げる工夫がされている。開隆堂は、各単元の「Scenes」で文法事項を学び、「Think」で読む力を鍛え、「Retell」で学んだことを自分の言葉で表現する、「Interact」で意見を伝え合う力を身につけ、「Our Project」で学んだことを統合的な表現力で再現できるようになっている。それらの過程において、メモなどを記録し、書いて残すことを丁寧に扱うことで、書くことの力をつけることに繋げている。

委員

2者の教科書は、川越市の生徒たちの課題を解消するのに適しているということか伺いたい。

選定委員

調査委員会からの報告と、選定委員会での協議により、そのように考え推薦した。

委員

現在、川越市の中学校では開隆堂出版の教科書を、小学校は東京書籍の教科書を使用している。中学校の発行者が東京書籍に変わった場合、「既に学んだことを確認し学びの継続性を大切にしていく」という点で考えると、特に、中学校第2・第3学年の生徒に対しては、新出単語の扱いなど、教員の大変な努力が必要と感じる。新型コロナウイルスの影響による授業の遅れを取り戻すという大きな作業がある中で、教科書の発行者が変わることが、教員の負担になるということはないか伺いたい。

選定委員

その点は配慮すべきことのひとつであり、負担と考えるかどうかは教員の状況にもよるが、確かにその部分について配慮を必要とするということで、若干の負担は生じると考える。子どもたちの側から見ると、小学校第6学年で学習した子どもたちが中学校第1学年で授業を受けるということであれば、教科書に記載されたアイコンやイラスト、キャラクターなどの一貫性という点で、似たようなものであった

方が滑らかな接続にはなると考える。同一発行者の教科書であれば、新出単語など配慮すべき部分の負担が減るといえる。

教育長

東京書籍は、他者に比べサイズが大きい、この点について意見が出されたか伺いたい。

選定委員

大きさそのものの使い勝手やメリット・デメリットについては特に協議されなかった。大きさによる支障は特にないと考える。

教育長

東京書籍は、サイズの大きさもあり、文章量が他者に比べて多いように感じたが、選定委員の評価を伺いたい。

選定委員

教材全体の数では、東京書籍は598で最も多く、開隆堂は535である。なお、読むことの領域の教材については、教育出版が156と最も多い。書くことの領域で教材数が最も多いのは、東京書籍である。

教育長

開隆堂出版は、読むことの領域に関する教材が少ないように感じるが、その点について伺いたい。

選定委員

開隆堂出版は、最も少ないという結果である。

教育長

その点について、問題点が出されたか伺いたい。

選定委員

4項目5領域をバランスよくという観点で考えれば、読むことの領域の教材が少ないから劣っているということではなく、支障はないと考える。

教育長

2者の教科書について、それぞれ良さをまとめるとどういった点か伺いたい。

選定委員

総括すると、東京書籍は、小学校との継続性を意図した構成が特徴的である。小学校で学習した語彙や文法などは、既習事項を示すマークが付されており、小学校で学習した単元との継続性を踏まえた授業を行うことが可能である。開隆堂では、各単元内に「Try」という帯活動が設定されており、小学校で学習した内容を用いた会話発表により、日々の授業において、帯活動として用いることができる。それにより既習事項を復習し、あわせて会話を通して、力を育成できるという特徴がある。

教育長

2者について、QRコードの取扱いについて伺いたい。

選定委員

2者ともに、全てのページにQRコードが付されている。東京書籍は、音声に加えて「Preview」の内容をアニメーションで視聴することができ、動画の最後にはその単元で学習する重要表現が集約された文章も提示されている。コンテンツの量では、東京書籍の方が多い。

教育長

川越市の生徒の、書くことの領域に関わる問題や記述式問題の正答率が低いという結果を踏まえたうえで、2者の評価を伺いたい。

選定委員

書くことの領域については、教材の数で比較すると、東京書籍が最も多い。4技能5領域におけるバランスという点では、2者に差はないと考える。

委員

現在、開隆堂出版の教科書を使用しているが、発行者が東京書籍に変わった場合、現在の中学校第1・第2学年の生徒は、途中から異なる発行者の教科書を使用することになる。その点についての対応策や工夫を伺いたい。また、英語は学力差の出やすい科目かと思うが、2者について、学力差を埋める対応がしやすい、埋める工夫がされている教科書はどちらか伺いたい。

選定委員

発行者が変わった場合の対応については、中学校の外国語補助教材「Bridge」があるが、そこに現行の学習指導要領には含まれていない新たな内容が盛り込まれている。「Bridge」を活用することで、新学習指導要領において学ぶべき内容も学習できるようになっているため、発行者に変更があったとしても支障はないと考える。

学力差の対応については、指導法に関わる部分が多いと考える。イラストの表現など学習意欲を継続させるという点では2者とも工夫されており、指導法の中で、学力差への対応を行うことが大切と考える。どちらの教科書でも、関心を持たせ、その関心・意欲を継続させるという、指導の工夫で対応すべきと考える。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「NEW HORIZON English Course」3票、開隆堂出版「SUNSHINE ENGLISH COURSE」1票、他は0票となり、英語は、東京書籍「NEW HORIZON English Course」を採択することとする。

教育長

道徳について審議及び採択を行う。

選定委員

道徳の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書7者、東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつき、日本教科書について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と学研教育みらいの2者とした。

東京書籍「新訂 新しい道徳」では、各教材が身近な状況設定であるため、生徒が自分のこととして捉えやすい。全学年で「いじめ問題」「生命尊重」には、教材を組み合わせたユニット構成としており、様々な側面から、多面的・多角的に考えを深める工夫をしている。SNSでのいじめなど、新しい情報モラル対応教材が学年を追うごとに増えていき、内容も発達の段階に即したテーマになっている。全学年で役割演技を主体とした活動「ACTION」が2カ所組み込まれていて、グループエンカウンターやモラルスキルトレーニングなど、体験的な学習ができるようになっている。巻末には、付録の心情円が収録され、それらを活用することで心情の可視化や意見交流の活発化をはかることができ、生徒が自主的に考え、話し合える工夫がされている。挿絵・写真・漫画のほかデジタルコンテンツも用意されており、生徒の興味関心を高めると共に道徳的価値を深く理解できるようにしている。

学研教育みらい「新・中学生の道徳 明日への扉」では、「命の教育」を重点テーマとし、「生命の尊さ」「いじめ防止」を考える教材を複数用意すると共に、他の内容項目の教材の中にも、「いのちの大切さ」「いじめ防止」を考える教材も数多く用意し、様々な観点を通して多面的・多角的に考えられる工夫をしている。また、教材の冒頭に主題名を記載しないことで、生徒が特定の価値観に縛られず、自らの気づきや考えが促され、主体的に学びを深めることができる。現代的な課題へは、発達段階に応じて系統的に問題提起している。SDGs、キャリア教育については、全学年でユニット学習を組んで視点や内容項目の異なる複数の教材を関連させ、広い視野に立って物事を多面的・多角的に考えさせる工夫をしている。読み物だけでなく、絵や写真、図やグラフ等の素材で構成された新感覚の教材も取りそろえ、生徒の自由な発想を促し、自発的・主体的に考えを深めやすい構成となっている。

委員

道徳においては、初めから答えを用意してそこに導くのではなく、生徒たちに考え議論させることが重要と考えるが、その点について2者の工夫を伺いたい。また、いじめについて、どのようなアプローチを行っているか伺いたい。

選定委員

考え、議論するという点について、東京書籍は、学習の手引きとして「考えて

みよう」というコーナーが配置され、教材を読んだ後に考え、議論し、問題解決するという学習の流れを作っている。学年で2か所「ACTION」が設定されており、役割演技やグループエンカウンターなど体験的な学習も組み込まれ、ねらいを深めるようにしている。学研教育みらいは、読み物教材の最終定義に投げ掛けがあり、発問として生かすことができる例を示している。特設ページ「深めよう」「クローズアップ」「クローズアップ+」の欄を活用することで視野を広げ、考えを深められると考える。

いじめの未然防止について、東京書籍は、3つの教材を組み合わせたユニット構成でいじめの問題を多面的・多角的に捉え、様々な側面から考えを深める工夫がされている。「いじめのない世界へ」というユニットが全学年に設定され、重点的に扱っている。いじめを未然に防ぐ、いじめをしない、いじめをさせないという心を育むように作られている。学研教育みらいは、いじめに関する直接的な教材、間接的な教材それぞれを通して、様々な視点から自己の問題として、多面的・多角的に深く考え議論することができるように工夫がされている。全学年にいじめ防止に繋がる特設ページがある。他者の視点に立つことや、自己の感情との向き合い方について考えられるようになっており、いじめを生まない心の育成に繋がられるようにしている。

委員

道徳は教えることが非常に難しく、教える側の教員の資質も問われるように思うが、経験の浅い教員が教えるにあたっての、教科用図書としての工夫について伺いたい。また、道徳の教科書を選定するにあたり、特に重視した点を伺いたい。

選定委員

教える側の指導力によっても扱いやすさは変わってくる。経験の浅い教員は教科書に書いてある設問をそのまま授業で使い、教科書通りに進めていくことになる。逆にベテランの教員は、教科書に書いてあることで、その箇所をやらなくてはいけない、と捉えることもある。教科書の設問に取り組みなければならないことで、本当は生徒たちに深く考えさせたい箇所の学習が、浅くなってしまうこともある。

また、生徒を評価するという面でも、若い教員については「どんな活動をしてきたのか」「どんな変容があったのか」という、記録が書き込めるような教科書が扱いやすいと言える。ベテランの教員は、自分で作成したワークシートの方がやりやすいこともあると考える。

道徳の教科書を選定するにあたっては、いじめの未然防止の視点に立ち、道徳性を育成するということが、教科書選定の視点のひとつである。両者ともアプローチの仕方は異なるが、いじめについて、命について、とても大切に扱った教科書だと考える。

委員

2者について、モラルなどの現代的な課題についてどう取上げているか、また、子どもたちがそれらの課題解決に向け考える意欲を養うために、どういった工夫がされているか伺いたい。

選定委員

中学生にとっての現代的な課題には、いじめや情報モラル、防災・安全、食育、SDGs、キャリア教育という問題があり、それらについてはどの発行者も工夫が見られる。東京書籍は、いじめや情報モラル以外の項目の扱いが、他者に比べて多く設定されている。学研教育みらいは、キャリア教育やSDGsについてユニットで取り上げ、力を入れている。

教育長

特に心に残るような資料があったか伺いたい。

選定委員

人によって心に残るものは若干異なると思うが、全ての教科書において、これはいいな、と思うような教材が取り上げられている。昔ながらの共感できるような読み物的な教材もあるが、学研教育みらいに掲載されているような、漫画・コラムや写真のみの教材など新感覚のものもあり、読み物だけでなく色々な方法で子どもたちにアプローチしているので、それが心に残るといふ子どもも出てくると考える。

教育長

道徳の授業は、話し合いや議論が中心となり、一律に答えを出すようなものではない。発行者によっては、教科書に別冊ノートが付属しているが、子どもにとっては、別冊があるものとないもの、どちらが扱いやすいか伺いたい。

選定委員

別冊ノートについて、子どもにとって良いか悪いかというのは難しい。教える側は、ノートを見ることによって生徒の変容がわかるという点で、生徒を評価する面では良いと考える。生徒にとっては、別冊ノートを付けることによって、教科書の重さが30から50グラム程度重くなる。また、ノートがあることによって、学ぶ側も教える側も考えが縛られてしまうこともあると考える。どちらが使いやすいか、というのは難しい。

教育長

2者について、特筆すべき特徴を伺いたい。

選定委員

いじめ、生命の尊重、命の教育に重点を置いているのが良い点である。東京書籍は、「いじめ問題対応ユニット」が全学年に掲載され、中学校第1学年であれば、いじめとはどんなことか、傍観者としての気持ち、いじめている者の気持ちなど、色々な面からの題材があり、それぞれをユニットでまとめて勉強ができるのが良いと考える。学研教育みらいは、「命の教育」が重点テーマであり、全ての題材の中

に、命や人権が盛り込まれている。テーマを特に初めに出していないため、題材や話の中で大事な部分を取り上げられやすい。例えば、直接的に「いじめについての教材です」と言わなくても、間接的に、いじめに関することが中から読み取れるような教材となっており、それぞれ生徒が考え、議論できるようになっている。

教育長

若い教員の扱いやすさについて伺いたい。

選定委員

若い教員にとっては、テーマが初めに掲載されている東京書籍の方が、「今日はこのテーマに沿って学習する」というのが子どもたちにもわかるため、やりやすいと考える。ベテランの教員であっても、教科書に提示されたテーマに沿って授業を進めるだけでなく、「今日はここから何がわかるのか、何が学べるのか」というところに着目し、発展的にも教えられると考える。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新訂 新しい道徳」4票、他は0票となり、道徳は、東京書籍「新訂 新しい道徳」を採択することとする。

10 その他

- (1) 議案第29号の関係者として、中学校用教科用図書選定委員会委員である川越第一中学校校長、初雁中学校校長、高階中学校校長、霞ヶ関西中学校校長、川越西中学校校長の出席について各委員が承認し出席が認められた。
- (2) 会議録署名委員として、長谷川委員、佐久間委員が指名された。
- (3) 会議について12名の傍聴があった。